

# 潤いの「人間関係プログラム」 時間

さいたま市では、児童生徒のコミュニケーション能力の育成と、自己開示・自己表現が安心して行える信頼感に満ちた学級づくりを目指して「人間関係プログラム」の授業を実施しています。

## あなたは、このようとき、どのように対応しますか？

ある日の放課後、同じ学級の友人から「今日の日直を代わってほしい。」と頼まれました。しかし、今日は家族で出かける用事があるので、内心は断りたいと思っています。このときのじょうずな断り方について考えましょう。(じょうずな断り方の例は、このリーフレットの中にあります。)



仲間 助け合い えがお 感じる あやまる 感動 はなす  
ともだち 友情 えがお 悲しむ なかよし 怒る やさしさ 喜び

## 家庭教育学級やPTA連合会、各学校のPTA集会等で 体験講座を実施します。

### 子どもとのコミュニケーションでできていますか？

たとえば、ご家庭でお子様と話をする際に、お子様が保護者の方を見ずに話を聞いていたときには「話を聞くときには、話をする人の方を見るのですよ。」と諭してください。ご家庭や地域が学校と連携して、プログラムで学んだことを日頃の生活の場(直接体験の場)で生かしていくことが大切です。

**親子支援プログラム** 子どもたちが学校の「人間関係プログラム」の授業で学んだ「人と接する際に必要な様々なスキル」を定着させるためには、家庭における温かい親子のふれあいやコミュニケーションが大切です。

「親子支援プログラム」では、役割演技やグループ討論等を通して、子どもとのコミュニケーションについて考えます。



### こんなことを考えます

- 子どもの話の聴き方 ● 子どもの話に対する同調や共感の仕方
- 子どもとのスキスキップの仕方 ● 家庭で子どもに接する際の自分について ● 親心、大人心、子ども心の3つのバランス ● 子どもへの声のかけ方 ● 叱り方・ほめ方 ● 親子の対話の基本 など

## 「人間関係プログラム」チェックリスト

- 誰かが話しかけてきたとき、自分のしていることをやめて、話を聞きます。
- 相手に体を向けて話を聞きます。
- しっかり相手の顔を見て、話を聞くことが多い。
- うなずいたり返事をしながら相手の話を聞きます。
- 自然に相手の目を見て、自分の気持ちや考えを伝えることができます。
- はっきり「ありがとう」と言えます。
- 相手のことを考えて話ができます。



詳しくは…

### さいたま市教育委員会学校教育部指導2課





# 潤い「人間関係プログラム」とは!

## 目的

人と接する際に必要な姿勢・態度、感情のコントロールの仕方、相手の感情を読み取る仕方などについて楽しく学び、日頃の授業や行事などをはじめとする直接体験の場で定着を図ります。

## 「人間関係プログラム」の授業

- 実施学年** ● 小学校3・4・5・6学年の全児童 ● 中学校1学年の全生徒
- 実施時数** ● 小学校は、各学期はじめに6時間の授業を実施 ● 中学校は、1学期はじめに6時間、2・3学期はじめに各3時間の授業を実施

### 授業内容と学年別時間数について

単元・児童生徒の目指す成果・スキル(技術)	小学校3・4年生 【計6時間】	小学校5・6年生 【計6時間】	中学校1年生 【計6時間】 2・3学期【3時間】
● 学級にあたたかな人間関係を育む ・自己主張、自己開示、自己表現できる雰囲気づくり	2時間	1時間	1時間
● 会話において必要となる基本的なスキル(技術)の習得 ・「話をする人に体を向ける」「話をしている人を見る」「あいづちをうつ」などのスキルの習得	2時間	2時間	2時間 (2・3学期1時間)
● 相手とトラブルなく円滑に自分の意思を伝えるスキル(技術)の習得 ・「4段階話法」「message」などのスキルの習得	2時間	3時間	3時間 (2・3学期1時間)

## 実施方法

- 学級担任が指導します。

### あなたは、このようなとき、どのように対応しますか?

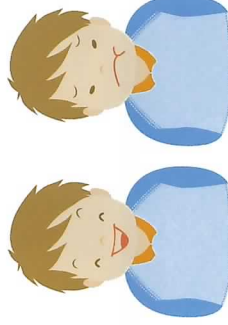
#### 事例

ある日の放課後、同じ学級の友人から「今日の日直を代わってほしい。」と頼まれました。しかし、今日は家族で出かける用事があるので、内心は断りたいと思っています。このときのじょうずな断り方について考えましょう。

#### じょうずな断り方の例

「ごめんね。実は今日、家族で出かける用事があるんだ。だから代わってあげられないんだよ。あいているときにはいつでも代わってあげるから、また言ってみてよ。」

### どちらの表情が話しやすいでしょうか?

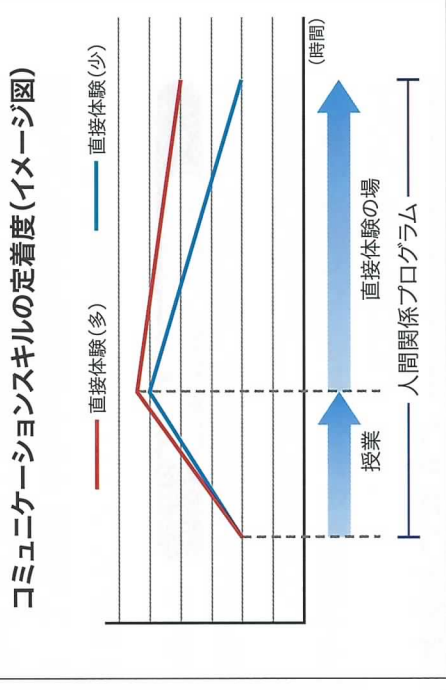


「人間関係プログラム」では、相手が元気になる話の聴き方を体験し学習します。

このように具体的な場面を設定し、4段階話法に従って、自分も相手も大切にしたい表現の仕方を学習します。

## 快適なコミュニケーションをするための技術(スキル)の定着度

「人間関係プログラム」で学んだスキルの定着度は、右図のように、時間の経過にしたがって変化することが予想されます。授業や行事などの学校生活でスキルを生かすことはもちろんのこと、家庭や地域の中でも、繰り返しプログラムで学んだスキルを生かすことが大切です。



## 「人間関係プログラム」Q&A

**Q** 「人間関係プログラム」の成果はどうなっていますか?

**A** 「人間関係プログラム」に係る調査で、児童生徒は次のように回答しています。

「人間関係プログラム」に係る調査集計結果(各年4月調査)より ※質問に「全くそのとおり」と回答した児童生徒の割合の推移

